

<平成29年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

群馬県 太田市立強戸中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成29年10月24日 (火)
- 場 所 : 太田市立強戸中学校
- ク ラ ス : 2年A組 (38名)、2年B組 (38名)
- オリンピック : 村上 佳宏 先生 (近代五種)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・村上先生から自己紹介をした後、オリンピックバリューについて「エクセレンス＝挑戦すること」、「フレンドシップ＝皆で頑張ること」、「リスペクト＝感謝すること」と説明し、運動の時間はオリンピックバリューを意識しながら取り組んでほしいと伝える。元気に明るく全力で取り組むこと、楽しく仲間と協力しながらルールを守ることを約束し、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・6班に分かれレーザーラン（紙コップを使ったタワー作り）を全3回戦実施。各回終了後に作戦タイムを設ける。村上先生から、1回目より2回目、2回目より3回目と結果が良くなっていったのは皆が話し合って、挑戦した結果だと伝える。

4. まとめ



・授業冒頭の約束が守れたかを問いかけ、次の座学の時間では運動の時間に考えたことを話し合ってもらうので、教室に戻りながらオリンピックバリューと運動の時間をつなげて考えてみてほしいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・村上先生から改めて自己紹介をした後、映像や写真を見せながら近代五種競技について紹介。オリンピック直前に怪我をしてしまったことや、支えてくれた周囲への感謝の気持ち、試合に臨む気持ち等をオリンピックバリューに当てはめながら説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問A組：運動の時間に感じたオリンピックバリューについて考える。

発表：紙コップを高く積める方法を考えた、話し合ったことに全力で挑戦した(エクセレンス)、意見を出し合った、班で協力した(フレンドシップ)、ルールを守った(リスペクト)等の意見が挙げられた。

発問B組：合唱祭に向けて実践したいオリンピックバリューについて考える。

発表：練習でも常にベストを尽くす、全員が練習に全力で取り組む(エクセレンス)、仲間と協力して練習に取り組む、(フレンドシップ)、仲間に敬意を表す、伴奏者や指揮者に感謝する(リスペクト)等の意見が挙げられた。



4. まとめ



・運動の時間に感じたオリンピックバリューは日常生活にも関わることなので、意識して生活に活かしてほしいと改めて伝える。平昌大会や東京2020大会では皆と同年代の選手が活躍するので、応援してほしい。苦しいことやつらいことがあっても、試練ではなく経験だと考えて、前向きに挑戦することをやめないでほしいと伝え、授業終了。





■ 集 合 写 真

2年A組



2年B組





■ 記念品贈呈

2年A組



2年B組



■ 証明書贈呈

